

7月19日(土)

文学部	日本・中国文学科	ミステリーへようこそ —西鶴の謎絵を解く—	藤原 英城 教授
-----	----------	--------------------------	----------

みなさんは挿絵を読んでいますか？ナニナニ挿絵は絵だから「読む」ものじゃない！？ごもっとも。でも挿絵はただ「見る」だけのものではありません。最近の小説には少なくなりましたが、江戸時代では必ずと言ってよいほど挿絵が施されました。西鶴の小説（浮世草子）には謎めいた挿絵が散見しますが、そこには「謎解き」のトリックが仕込まれているようです。西鶴からの挑戦をみなさんと一緒に解説（読む）してみましよう。

文学部	欧米言語文化学科	英語から見えてくる欧米の世界	大谷 直輝 講師
-----	----------	----------------	----------

たとえば、コップに水が半分入っている場合、皆さんは英語で何と表現しますか。The glass is half fullと言う人も、The glass is half emptyと言う人もいるでしょう。同じ状況を表すはずなのに、なぜ二つも表現があるのでしょうか。この二つの表現の意味の違いは何でしょう。
ことばをじっくり見ていくと、その中に隠れている人間の世界の見方が見えてきます。英語の様々な例を見ながら、その背後に広がる欧米の文化や社会を探っていきたいと思います。

文学部	歴史学科	江戸時代の世界像	上杉 和央 准教授
-----	------	----------	-----------

江戸時代は外国との接触が限定的な時代でした。そのなかで日本人はどのような世界像を抱いていたのでしょうか。この模擬授業では、江戸時代に作られた世界図をみていくことで、江戸時代に想像／創造された世界像をとらえていきます。
歴史学科では歴史を読み解く史資料を重視します。史資料を使うとどのような世界が広がるのか、ぜひ体験していただければと思います。

公共政策学部	公共政策学科	情報公開制度について学ぼう！（中級編）	下村 誠 准教授
--------	--------	---------------------	----------

みなさんは情報公開制度をご存知ですか？われわれは、この制度により、国や公共団体に対して行政文書の公開を求めることができます。これは民主主義制度の正常な運営にとって不可欠な制度です。この講義では、情報公開制度の基本的な考え方（解釈）を確認したうえで、身近な例として、大津市の運用状況を簡単に紹介します。また、いま全国の自治体を悩ませている情報公開に関する問題—請求権の濫用—について考えます。

公共政策学部	福祉社会学科	少年非行と異化効果	朝田 佳尚 講師
--------	--------	-----------	----------

福祉には様々な問題が含まれますが、この講義では少年非行の社会的イメージを扱います。近年、様々な事件の影響もあり、少年非行には大きな社会的関心が集まっています。ときに、その増加は「不安な日本社会」を象徴する現象と見なされます。しかし、そのイメージはどれくらい正確なのでしょうか。この講義では、いくつかのデータを検証しながら、社会的なイメージとの差異を確認し、同時に研究がもたらす「異化効果」の重要性を紹介したいと思います。

7月20日(日)

生命環境学部	生命分子化学科	生化学：タンパク質の形	高野 和文 教授
<p>本学科1回生で学ぶ「生化学Ⅰ」の中から、「タンパク質の形」に関する項の講義を行う。タンパク質は生命活動に欠かすことができない物質であるが、それらはそれぞれ固有の立体構造を形成することで機能を発揮することができる。その多様な立体構造や、立体構造の形成にまつわる現象などについて学んでもらうとともに、それらの生物学的意義や物理学的側面についても考えてもらいます。</p>			

生命環境学部	農学生命科学科	植物と微生物の戦いを分子生物学的に解明する	津下 誠治 准教授
<p>植物のまわりに存在する無数の微生物のうち、実際に植物に病気を引き起こす微生物種はごくわずかであり、しかも各々の病原微生物は、限られた植物種にしか感染しません。これは、植物自身が微生物一般に対する抵抗性をもつためであり、その抵抗性を打ち破る「武器」を獲得した微生物だけが、その植物種に感染できることがわかってきました。さらに、微生物がもつ「武器」を無効にする仕組みを植物が獲得する場合があります。本講義では、このような植物と微生物との戦いとその植物病の防除への利用について紹介します。</p>			

生命環境学部	食保健学科	細菌がヒトにもたらす光と影 ～消化管の常在菌と食中毒菌～	岡 真優子 准教授
<p>「マイクロバイオーーム」と言うことばを知っていますか。私たちの皮膚や口腔、胃、腸などには様々な種類の細菌がありますが、このような体内にすむまとまりのことをいいます。特に腸内の細菌の構成パターンは、ヒトによって千差万別で、最近健康に重要な役割を持つことが知られるようになってきました。一方で、家畜の腸内細菌がヒトの体内に入ると感染症を引き起こします。いわゆる食中毒です。本模擬授業では、このような細菌の悪と善についておはなしします。</p>			

生命環境学部	環境・情報科学科	模擬実験 物理：化学：生物：情報：数学	学科教員全員
<p>大学の研究室での実験を体験してみてください。つぎの5つの実験から学科ガイダンス、懇親会時に実験を選んで頂きます。各実験は、5つの主専攻と対応しています。</p> <p>物理：霧箱を作って放射線を見よう 化学：いろいろな化学反応を試してみよう、見てみよう。 ※化学の実験を希望する場合は、白衣があれば持参してください。持参しなくても実験は可能です。 生物：ブロッコリーからDNAを取り出そう！！ 情報：コンピュータサイエンスを体験してみよう 数学：折紙で正多面体をつくらう！</p>			

生命環境学部	環境デザイン学科	都市の建築文化を支える山地集落	松田 法子 講師
<p>戦国末期から近世にかけて花開いた建築に、茶室や数寄屋があります。「市中の山居」とも呼ばれるそれらは、町中であって鄙〔ひな〕の風情を楽しむという、きわめて都市的な性格をもっていました。そしてこれらは日本固有の文化的空間として、今日まで綿々と受け継がれています。</p> <p>本学から車で半時間ほど走った北山の山中には、このような建築文化を数百年にわたり支えてきた「中川」という集落があります。</p> <p>本講義ではこの林業集落を取り上げながら、その空間・社会構成や、「北山丸太」と呼ばれる杉の独特の生産方法、また、木を通じて織りなされる都市-集落-建築の豊かな諸関係について、写真を交えながら紹介します。</p>			

生命環境学部	森林科学科	木はどこまで高くなれるのか？	池田 武文 教授
<p>木は上に伸び、横に太ることで成長しています。成長が無限に続くことはなく、徐々に低下します。木はある高さに達するとそれ以上伸びなくなります。つまり、木の高さには限界があるのです。では、木の高さの限界はどのようにして決まるのでしょうか？これには「水」が重要な役割を果たしています。その謎を解き明かし、さらに、地球温暖化が進むと木の高さの限界はどうなるのかを考えます。</p>			